March 2019 Volume21

MIRAI

Military - Industry - Research & Development activities
partnerships And International Network

防衛施設学会誌

特集
旧軍施設の現在「いま」

レポート

防衛省・自衛隊OBによる国際協力／オヤジ達の国際貢献

飯場今昔ー 進化する飯場ー

巻頭言

防衛施設学会の未来（MIRAI）

防衛施設学会は、研究発表を主体とした旧防衛施設技術研究会（1962年（昭和37年）に創設）を発展的に改組し、新規の学会として2004年（平成16年）に発足しました。その後、2016年（平成28年）3月には一般社団法人化した団体です。

その活動目的は、『防衛施設技術及びこれに関連する研究及び調査を推進することにより防衛施設技術の振興を図り、もって防衛基盤の育成と学術文化の発達に寄与する』であり、「防衛施設技術及びこれに関連する」とあるように、学会がカバーしている範囲は極めて多様な分野です。事実、当学会の主要イベントである年次フォーラムやミリタリー・エンジニア・テクノフェアには、建設関連の分野のみならず電気電子・機械・化学など多分野からの研究者や技術者が集うことで多様性が拡がっています。実際に、そこに集った異分野の方々から、「交流によって新たなコラボレーションが生まれた」との報に数多く触れるようになってきました。ここ数年で、学会の裾野の拡大を感じています。

また、当学会の社会的認知度も徐々に上がってきており、イベント開催時には防衛省の後援が得られるようなったほか、間もなく創設100周年を迎えるSAME（サミー、Society of America Military Engineering、アメリカ軍事技術者協会）を初めとする各種公益団体との協力（alliance、アライアンス）構築も着実に進んでいるところです。

ここに、一般社団法人化して4年目を迎える今年、新たに作成した学会紹介用パンフレットに掲げた活動スローガン「産学官連携による防衛施設技術の構築 ― 次世代を担うミリタリーエンジニアの創出 ―」の下、今後も多様な活動を進めてまいります。

その具体例として、下記に二つほど挙げます。

一つ目は、産学官連携による調査研究活動の拡充です。2018年度は「調査研究委員会」の下に7つの研究部会の活動実績があり、このうちの3つの部会からガイドライン等が発刊されました。2019年度にもいくつかの学会版書籍が発刊される予定です。これらの研究部会は、年次フォーラムやテクノフェアに集う産学官それぞれに所属する研究者や技術者が「防衛施設」を共通言語としてアライアンスを構築することによって発足することから始まっています。今後も、このプラットフォームの下に多種の研究部会が発足し、書籍等の具体的成果に加えて、わが国のみならず世界に通用するアライアンスが構築されることを期待しています。

二つ目はスカラーシップ制度創設に向けた取り組みです。現在わが国で問題となっている少子高齢化にともなう各業界分野における担い手不足は、防衛施設の建設分野においても例外ではなく、わが国の将来にわたる安全保障基盤構築を担う若手技術者を育成する必要があります。この目的達成の手始めとして、大学等に所属する学生会員に対する支援制度の創設に向けての取り組みを開始します。

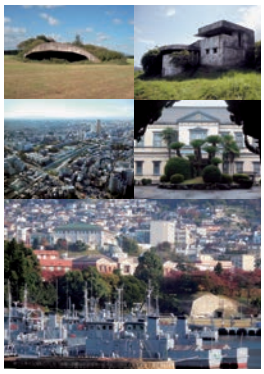
会員の皆様におかれましては、これら二つを含む防衛施設学会での活動を通じて、「わが国の安全保障基盤の構築」という極めて崇高かつ公益性の高い取り組みに携わっていることを誇りに持っていただき学会のプラットフォームを適切に活用していただきたく希望いたします。そして、防衛施設学会の活動の先にわが国の未来（MIRAI）を見据えながら、今後社会的に認められる組織団体としてさらに飛躍できるよう、会員の皆様と共に地道な努力を怠らないようにしてまいりたいと考えております。引き続きご支援ご協力のほど重ねてお願い申し上げます。

大野　友則

一般社団法人防衛施設学会　理事長

MIRAI

Military - Industry - Research & Development activities partnerships And International Network



表紙写真について

掩体壕（旧陸軍計根別飛行場跡） 北海道野付郡別海町	防衛大学校花立訓練場（旧陸軍花立堡塁砲台観測所跡） 神奈川県横須賀市
防衛装備庁艦艇装備研究所（旧海軍技術研究所高速水槽） 東京都目黒区	陸上自衛隊善通寺駐屯地・乃木館（旧陸軍第11師団司令部） 香川県善通寺市
海上自衛隊呉地方総監部（旧海軍呉鎮守府） 広島県呉市	

Special Features

40 旧軍施設の現在「いま」

42 旧軍が建設した自衛隊施設の保存・活用の状況について

51 軍事遺産を歩く 東京湾要塞「第2海堡」

58 書籍の紹介「海軍施設系技術官の記録」

64 書籍の紹介「不燃都市」
ー防空都市建設の世界的動向と我國の進路ー（2）

Special report

71 防衛省・自衛隊ＯＢによる国際協力／オヤジ達の国際貢献

80 飯場今昔
ー 進化する飯場 ー

News

4 防衛省、JICA、BSKの後援を得て年次フォーラム2019を開催
600名のミリタリーエンジニアが市ヶ谷に集結

10 防衛施設学会と米国軍事技術者協会（SAME Japan Post）との連携

13 防衛施設学会現地施設見学会・レポート

19 第12回ミリタリーエンジニアテクノフェアを開催

23 エネルギー技術部会における施設見学会

26 防衛施設 新技術情報 Vol.10 発刊

一般社団法人防衛施設学会誌
2019.3　第21号

Contribution

27　海上自衛隊施設部隊の紹介

33　環境教育の新たな取組
～環境ワークショップの可能性～

35　Society of American Military Engineers （SAME）
米国軍事技術者協会 （通称：サミー）

38　F35-B訓練用飛行場が完成
－米海兵隊・伊江島補助飛行場－

Series

1　巻頭言

84　防衛施設学会広報アイテムの作製・配布

39　研究部会活動の成果を書籍として発刊

86　平成30年度（一社）防衛施設学会総会資料

94　催し物紹介

95　読者から

97　編集部から

98　防衛施設学会詳細

109　入会申込

112　読者アンケート

Archive

114　防衛施設学会誌（No.1～No.20）　総目次

127　防衛施設学会研究発表会論文集　総目次